

東公民館

餅つき大会

12月21日(土) 9時から、第2回餅つき大会を実施しました。これは生涯学習公民館活動の一つで、昨年度から始めたものです。

今年度、東公民館活動に参加していただいている方々に呼びかけて参加者を募りました。

昨年は石臼を借りてきましたが、今年は木(けやき)の臼を借りてきました。昨今、けやきの白など見る機会も少なく、貴重な体験ができました。

てあしをしていても、石の臼だと、ついていくうちに段々



▶エプロンに三角巾姿でガンバルぞ!



▶もんで、まるく、形よく

とお餅も冷めてきますが、木の臼だと熱を奪われないのか、最後まで熱くてたまりませんでした。

もう一つ木の臼の特長が分かりました。それは小づきがしやすいことでした。石の臼よりも、短時間に能率よくつけるように思いました。

子どもたちは、杵を使った餅つきは珍しいのか、興味をもち、積極的に取り組んでいました。男女を問わず、順番に杵を持ち頑張っていました。周囲の人が声をそろえてつく数を数えて、声援を送りました。



▶それ、ベツタン

子どもたちは、つくことだけではなく、あんをもむときもお餅をもむときも、男女ともに真剣に取り組んでいました。

また、参加者のお土産用のパックづめに至るまでよく頑張ってくれました。

餅つきをしている子どもたちを見ていても感心することがありました。それは年上の子が、大変優しく年下の子にいろいろと教えて、面倒をみてあげる姿です。

このことは、以前の「親子ケーキ作りに挑戦」のとき、小学校4年生の女子3人組が、幼稚園児にクッキーの型抜きを優しく教えていたときにも感じたことです。

あんのお餅を10個も食べた小学生もいたようで、楽しく有意義な餅つきでした。

補導センターだより

今必要なことは?

松前町青少年補導センター所長

村上朋子

「おはようございます。」
家庭の一日がさわやかなあ
いさつでスタートしているで
しょうか。子どもたちは家族
の一員、社会の一員です。人
と人とのかわり、ふれあい
の中で毎日過ごしています。

社会生活を営む中で、人間
関係を深める第一の要素は、
コミュニケーションにあります。
それは、あいさつから始
まります。「挨拶」とは心をひ
らいてせまるという意味です。
大人から子どもたちにあいさ
つ言葉を投げかけて社会の中
で役立つ習慣形成に努め、人
と人とのかわり方を教え、
社会性の育成を期していくこ
とが必要です。

「気をつけて行っていらいっしや
い。」
と、毎朝子どもたちに愛の一
声をかけて送り出しているこ
とと思います。これは、親と
して今日も一日元気で無事に
過ごしてほしいという願いが
込められているわけです。

子どもたちにとって社会生
活に必要な生活習慣がたくさ
んあります。基礎、基本とし
ての礼儀作法、健康、安全、

物や金銭の大切さ、整理整頓
など社会の中でのマナーやルー
ルをしっかりと教えるなければな
りません。子どもたちの主体
性・自主性の美名のもとに、
きちっと教えるなければならな
いことが置き去りにされてい
ないでしょうか。

さらには、自由とは責任を
伴い、規律に支えられた自由
である。権利とは義務を果た
した上での権利である。この
ことを忘れて、無責任な自由
を求め、義務は果たさず権利
のみを主張する人間が多くなっ
ていないでしょうか。

今こそ、子どもたちを取り
巻くすべての大人が21世紀に
生きる子どもたちのために人
間として社会に役立つ正しい
生活習慣をしつけ、社会規範
を示し、正しい考え方を教え
る努力をしなければならな
いと痛感している昨今です。

そして、子どもたちを認め、
励まし、存在感をもたせ、居
場所をしっかりとつくってやり
ましょう。家族あって家庭な
し、学校あって学習なし、社
会あって温もりなしとならな
いように...